

平成26年5月号からスタートしたふれあい通信が今月号で30回を迎えました。

# ふれあい通信

SADA<sup>SM</sup>  
No.30

## 廃校活用について

旧長南小学校の活用が決まりました。当該施設は、街の中心部にあり、保育所にも近いことから、グラウンドは駐車場やイベント用地として、体育館は多目的施設として利用できることは、町民の皆さんの望むところではないかと考え、校舎のみを活用していただける企業を探していたところでした。

このたび、千葉県のご協力もあり、跡地活用検討委員会や、地元の皆様のご意見をいただきながら、中古パソコンの販売やサポート事業を運営する、東京のリングローという会社の誘致に成功しました。町民の皆さんが自由に使えるスペースを備えた「長南集学校」として4月に開校することですので、ぜひご利用いただければと思っています。

これで2年足らずで廃校4校のうち、3校が決まったことになりました。既に2校は東京の大手企業が活用しており、「交流人口」も確実に増えています。町の知名度も高まっています。地域の活性化と雇用の創出に繋がった廃校活用の成功例として、マスコミに何回も取り上げられました。これも町民の皆さんのご理解と、職員の頑張りがあったからこそだと思います。



## まちづくりについて

長生郡には6つの町村があります。それぞれ町の形態は異なっていますが、大きく2つに分けると「海の手」と「山の手」になります。もちろん「海の手」は、一宮町・長生村・白子町で、「山の手」は、睦沢町・長柄町・長南町となるわけですが、最近、睦沢町は海の手との連携を強化しているようです。

一宮町の人口は、特殊な要因で増えています。他の町村の人口は減っているという事です。高度経済成長期に増えたものが、少しずつ減っているという事です。本町だけは急激な人口減少に見舞われ、少子高齢化が進んでおり、過疎地域に指定されています。その要因はいくつかあるわけですが、本町にはまちづくりの拠点となるものがないことが要因の一つであると思っています。海の手は海岸という観光資源があります。長柄町は生命の森が、睦沢町には道の駅と商業施設がそれぞれあります。これらを中心に、まち



長南町長 平野 貞夫

づくりを進めることができるのです。では、長南も拠点をつくれれば良いのではということになります。が、拠点をつくるには財源と時間が必要です。町の財政は思いのほか厳しいです。人口も20年後には半分になると言われており、時間的余裕もないわけでありです。

私は町の拠点づくりは、民間の活力を導入していくしかないと思っています。水沼地先の西部工業団地計画跡地をはじめ、町内には未利用地も多くあります。これらを上手く活用していければと思っています。いろいろな企業から問い合わせもありますが、やはり長南の豊かな自然、豊かな生活環境を脅かすような企業であってはならないわけです。

今、ある企業からの提案があります。オーガニック農法による、循環型農業の事業を行いたいということです。具体的にはこれからですが、この企業の誘致に成功すれば、雇用の創出が期待でき、地域経済は活性化し、町が豊かになると思っています。本町の将来を大きく左右する大型事業ですので、地元の皆さんと十分協議をしながら、慎重に取り組んでいきたいと思っています。

今後、更に人口減少が進み、財政健全化に努めることとしても、現行の行政サービス水準を落とすわけにはいきません。そのためのもちづくりを、スピード感をもって行ってきたいと思っています。

新しい事業展開に批判は付きものです。ですが、私としては今後も住民福祉の向上と町の発展のために、全力を尽くしてまいりますので、皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

